

## 日本助産学会ニュースレター

## 巻頭言

## 未来に継ぐ助産学 - 助産の知と技、精神 -

第25回日本助産学会学術集会 会長 北川 真理子 (名古屋市立大学大学院看護学研究科)

人は生命を育み、家族を形成しお互いに支え合って生活をしています。その時代の文化・社会的な要素は女性の生殖過程に、影響を与えます。女性が子どもを産み、育てる過程において家族や周囲の人々にもこれらの要素は影響をもたらしていきます。妊娠・出産・産褥の経過は、確かに似かよっていますが、助産師は出産そのものが決して同じ存り様でないことを認識しています。助産師は、ケアを行うにあたって系統立てて科学的に判断をしていきますが、適切なケア提供するために、今、何が起きているのか、対象のおかれた状況に対して洞察する思考過程を高めます。

助産師が判断するために指標とするものは科学的根拠の明確なものもあれば、経験の積み重ねから助産実践の裏付けとして活用しているものがあります。この実践的裏付けを学問的に理論化することで、助産学の理論体系の拡充が図られましょう。マイノリティ (minority) のケアや先蹤のないものに対する探究には、時に理論構築に時間を要することになります。しかし、助産学は実践の科学である以上、実践を裏付ける学問として形成されなければなりません。その対象に起こり得たものは「それが何であるのか」、「どのようなものが影響をもたらすのか」という問いに対して、質的帰納的分析による概念化は、理論化へと導く重要な構築の過程であると言えます。

助産師は助産実践を通して、専門的センス (sence) を錬磨し、専門職者として自らが行う助産ケア効果の検証を行うことにより、助産ケア技術の改善と向上を図ることができます。

第25回の学術集会は、「未来に継ぐ助産学 - 助産の知と技、精神 -」をメインテーマに名古屋で開催いたします。助産師が培ってきた助産術は、たゆみない助産師の精神が守り育ててきたものともいえます。私たち助産師は実践上の疑問に対して探究し、助産師の判断や助産ケアに有効な、そして対象に有益となるものを引き出して行くことが重要であり、それがひいては助産学の発展に繋がるといえます。今、私たち助産師は先人から引き継いだ助産をさらに発展させ、助産の知と技、そして助産の精神を未来に継承していきたいものです。

助産学の研究課題や、助産実践の探究された成果をご発表くださいますよう、多くの方のご参加をお待ちいたします。

## 第24回日本助産学会総会報告

庶務担当理事 砥石 和子

日時：平成22年3月20日（土）11：40～12：37

会場：つくば国際会議場 2階大ホール

1. 開会あいさつ（堀内理事長）
2. 出席会員数の確認…58名
3. 報告事項
  - 1) 理事会報告（堀内理事）  
総会要綱に沿って説明があった。
  - 2) 評議員会報告（堀内理事）  
総会要綱に沿って説明があった。
  - 3) 事業報告  
砥石庶務担当理事から庶務報告、以降福井副理事長から【総会要綱p.5～9】に沿って委員会等の活動が一括報告された。
  - 4) 第24回学術学会準備状況  
加納理事から、【総会要綱p.10～11】に沿って第24回学術学会準備状況の報告があった。  
1)～4)の事項に関して質問・意見等なし。
4. 審議事項
  - 1) 平成21年度収支決算報告  
高田会計担当理事から【総会要綱p.12～13】にそって、一般会計決算案、特別会計決算案について報告された。
  - 2) 監査報告  
青木監事より会計監査報告があった。  
会員から質問・意見がなく、拍手多数として、承認された。また、資金の面からも会員増を図る必要性についても説明があった。  
平成21年度収支決算報告に対して、質問・意見等なく賛成多数で承認された。
  - 3) 一般社団法人日本助産学会定款案（資料）  
堀内理事長より一般社団法人化についての、目的及び意義について説明があった。  
高田理事より、日本助産学会会則から一般社団法人日本助産学会に移行した場合の変更点について、資料に沿って説明があった。  
一般社団法人日本助産学会定款について質問・意見等なく、賛成多数で承認された。
  - 4) 平成22年度事業計画案  
堀内理事長より、【総会要綱p.14】に沿って次年度の10項目の事業計画が説明された。  
質問・意見等なく承認された。
  - 5) 平成22年度収支予算案  
高田会計担当理事から【総会要綱p.15～16】に沿って平成22年度収支予算案が説明され、質問・意見等なく賛成多数で承認された。また、一般社団法人になった際の、学術集会の会計は本会計の中に入る旨の説明があった。
  - 6) 次々期（第26回）学術集會長の推薦（堀内理事）  
園生陽子氏（天使大学大学院）の推薦があり、賛成多数で承認された。
5. 表彰  
平澤理事から平成21年度表彰者の紹介があった。  
功労賞：村山郁子氏、学術賞：正岡経子氏、奨励賞：滝澤和子氏の3名に対し、理事長から、各表彰者に表彰状が授与された。  
表彰者を代表して、村山郁子氏より挨拶がなされた。
6. 次期（第25回）学術集會会長あいさつ  
北川真理子氏から挨拶があり、次期第25回学術集會は平成22年3月5日（土）・6日（日）名古屋国際会議場にて開催されることが紹介された。
7. 閉会あいさつ（福井副理事長）



## 第24回日本助産学会学術集会報告

第24回日本助産学会学術集会長 加納 尚美

2010年3月20日(土)・21日(日)の両日と前日の19日(金)のプレ  
 コングレスを含めて、第24回日本助産学会学術集会をつくば国際会議  
 場にて予定通り開催いたしました。

おかげさまで、思いがけない春の嵐に見舞われながらも約900名から  
 参加していただき、成功裡に無事終了いたしました。参加者の半数以  
 上が非会員で、学会が社会に開かれる場であることも感じさせられ  
 ました。皆様のご支援・ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。  
 企画及び実行委員一同篤く御礼申し上げます。

第1日目：今回は、すべて当日受付とさせていただきます。国際会  
 議場は、プレコングレスを含め、全て貸し切りで準備をしておいま  
 したので、受付はスムーズに運営されていたようです。

招聘講師のバーバラ・カッツ・ロースマンさんは、食と出産、食の職人と助産師を対比させながらお話され、聴衆に途  
 中どのように両者が結び付けられるのだろうと思わせながら、最後はみごとに「次世代の助産師を育む」というテーマに  
 着地されました。講演録は次号の学会誌に掲載される予定です。

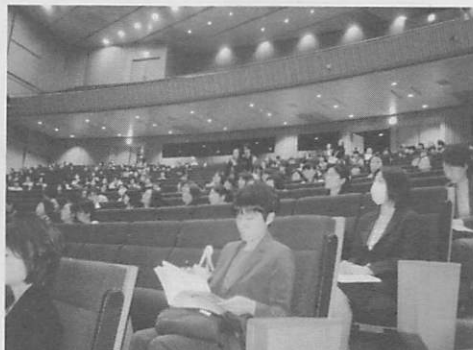
午後のシンポジウムでは、多領域で各々活躍のシンポジストから、学会テーマの核となるコンセプト「助産を育む」  
 「助産の土壌を耕す」について熱く語っていただきました。同時進行の参加型ワークショップにも多くの方が参加されて  
 いました。夕方からの懇親会では講師、参加者共々つくば市で楽しく語り合うことができました。また、シンポジストの  
 高室典子さんが歌って下さった「美しの星」(作詞・作曲 宮澤洋子)は今も心に響いています。この曲は、オリジナル  
 で作って下さったとのことでした。

第2日目：前日の夜から吹き荒れた嵐が収まらないまま2日目の朝を迎えましたが、全体としては滞りなくプログラム  
 を進めることができました。サブテーマ毎の3つの基調講演と3つのシンポジウムは、個々の関心にあわせて参加されて  
 いました。ワークショップ各種も熱気溢れ、講師と参加者共々エネルギーを交換し合い、新しい何か生まれそうな雰  
 囲気でした。会員の一般演題発表140題はすべてポスター発表でした。強風で学会発表を断念せざるをえなかった方もい  
 らしたことは大変残念でした。

市民公開講座は、ポスターを高校生に作ってもらい近隣に広報し、当日多くの方々からお集まりいただきました。また、  
 2日に渡って、エントランスホール2階上の廊下で開催された写真展「誕生の詩」を多くの参加者が立ち止まって見入っ  
 ておられました。写真の子どもの目にはどのように助産学会が映ったのでしょうか？ リレートークは、冒頭に3月  
 に卒業したばかりの助産学生のメッセージに始まり、各講師のトークを受け取りながら、アンカーの松岡悦子さんが、「産  
 むことは未来を創ること、そして助産師は産む女性に勇気を与える人です。だから、私たちは助産師に期待し、そして未  
 来に投資するのです。」と締めくくりをして下さいました。

最後に、今回初めての試みでしたが一般演題ポスター賞の投票の結果を受けて、ポスター賞の発表及び賞状授与式をし  
 ました。続く閉会式にも多くの方が参加されました。尚、両日を通じて5テーマのランチョンセミナー、58社の協賛会  
 社のご協力を得、8団体の自主グループ展示もいただきました。

プレコングレス：日本助産学会スキルアップ委員会主催の「緊急時の助産実践」は講師の都合で急遽中止となりました。  
 日本助産師会茨城県支部主催のアートセラピー「わたしを育むガーデニング」「自分でできる東洋医学」は当日参加も多く、  
 大きな会場でゆったり学びを深められたようです。



「一般社団法人 日本助産学会設立のお知らせ」

去る3月20日第24回日本助産学会総会において、一般社団法人設立に向けての定款が承認されました。現行の会則との主な変更点は以下のとおりです。その後5月6日に法務局に登録し、一般社団法人日本助産学会が設立されました。

**一般社団法人 日本助産学会  
設立にあたって**

**名称変更**

現行の会則	一般社団法人 日本助産学会 定款
評議員	代議員(=社員)
評議員会	社員総会
総会(学術集会時)	学会総会

**権 限**

	現行の会則	一般社団法人 日本助産学会 定款
学会総会での普通会員	審議事項の議決	意見申し立て
予算案、次年度事業計画 議決機関	総会(学会総会)	理事会
決算、事業報告の 承認機関	総会(学会総会)	社員総会

**任 期**

	現行の会則	一般社団法人 日本助産学会 定款
理 事	3年	2年
監 事	3年	4年
代議員	3年	2年

**理事数、指名理事の扱い**

	現行の会則	一般社団法人 日本助産学会 定款
理事数	15名以内	20名以内
指名理事	あり	なし

**議決数**

	現行の会則	一般社団法人 日本助産学会 定款
社員総会	過半数の出席	過半数の出席で出席者の過半数
理事会	3分の2以上の出席	過半数の出席で出席者の過半数

**普通会員入会資格**

現行の会則	一般社団法人 日本助産学会 定款
助産学の実践・研究及び教育に従事するもの	助産師免許を有するもので、助産学に関心のある個人
評議員の推薦必要	代議員の推薦必要

**選挙の流れ**

現理事、監事、評議員の任期は、平成22年度まで。しかし、一般社団法人となれば、そこから再度、任期は始まる。

## 平成21年度日本助産学会 表彰受賞者報告

表彰関連選考委員会 平澤 美恵子

### 〔功労賞〕

村山郁子氏は、助産実践に必要な知識・技術の体系化を求め助産学会の設立に向け、昭和60年（1985年）に発起人代表として趣意書の策定とともに本会規約の草案に関り、昭和62年（1987年）助産学会発足後は、理事や評議員として12年間にわたり本学会の基盤づくりにご尽力下さいました。平成3年（1991年）には、第5回日本助産学会学術集会長として、発展性のある学会を開催され、その精力的な教育・研究活動は多くの教育者や研究者・助産実践者を育て助産師業界への貢献は顕著であります。



### 〔学術賞〕

正岡経子氏は平成21年（2009年）に札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士後期課程を修了し、現在札幌医科大学保健医療学部看護学科の講師としてご活躍です。研究は周産期の女性の心理、助産師の体験や判断に主眼をおいて行われ、「開業助産師の分娩期における意思決定」では意思決定の7つの因子を導きました。本研究は助産師教育や現任教育での臨床能力を習熟させる目安となり、助産師教育・助産実践への活用可能性が評価されました。

### 〔奨励賞〕

瀧澤和子氏は福井県敦賀市において、敦賀市内の小学校・高等学校・市教育委員会での養護教諭を経て、昭和58年（1983年）に母上様からの助産院長を継承し、28年間助産師の専門性を追求して今日に至り、自宅出産をも含め1,900件におよぶ助産を行っております。一方で看護教育、助産師教育、JICAの海外研修生など、国内外を問わず助産を通して後輩の育成に努められ広い視野から教育に貢献しております。

## 平成22年度日本助産学会 学会賞候補者の自薦または推薦の公募

表彰関連選考委員会 平澤 美恵子

日本助産学会では本会会則第4条3項に則り、本学会の発展に貢献、あるいは学術領域において優れた業績があったと認められる学会員の表彰を行っております。学会賞として、次の表彰に該当されると思われる方は是非ご推薦下さい。

### 学会賞の種類及び資格、審査対象

#### 1. 日本助産学会学術賞（以下、学術賞）

資格：5年以上の日本助産学会の会員であること。

審査対象：助産学に関連する一連の研究に対し3篇以上の原著論文を有し、且つこの中の1篇以上は、推薦年度を含む過去3年間に日本助産学会誌に発表していること。

#### 2. 日本助産学会奨励賞（以下、奨励賞）

資格：3年以上の日本助産学会の会員であること。

助産実践者として活動歴が10年以上あり、助産実践の向上や開発に貢献していること。

審査対象：応募年度を含む過去3年間に本学会に発表した助産実践者で実践の向上や技術開発への貢献を認められる者。

公募について 学術賞及び奨励賞は、会則第4条2項に定める受賞資格を有する者の自薦、又は本会員の推薦とする。

受賞者数 上記各賞とも若干名

募集方法 各応募申請書及び申請書フォーマットは、日本助産学会ホームページに提示する。

### 推薦応募書類

#### <学術賞>

- ① 応募申請書（様式1） 7通
- ② 業績の概要（200字以内）（様式2） 7通
- ③ 申請論文3篇の別冊又はコピー 7通
- ④ 推薦書：他薦の場合のみ（様式3） 7通

#### <奨励賞>

- ① 応募申請書（様式1） 7通
- ② 業績の概要（200字以内）（様式2） 7通
- ③ 本学会で発表した抄録又は論文1篇の別冊又はコピー 7通
- ④ 推薦書：他薦の場合のみ必要（様式3） 7通

推薦応募締め切り 平成22年10月末日

各候補者の推薦応募は、上記の書類を添えて日本助産学会事務局に「推薦書類」と朱書きにして送付して下さい。

## 編集委員会からのお願い

編集委員会 島田啓子

会員の皆様におかれましては、日々多くのご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

論文を投稿する際に以下の点にご留意ください。

### 1. JAM投稿論文チェックリストについて

投稿時に、原稿に添付するものとして、①論文誓約書、②投稿論文チェックリスト2枚、③英文抄録チェック証明書（自筆サイン入り）、をお願いしております。最近はこの書類3点を添付せずに投稿する会員がいます。

そこで下記の項目24をチェックリストに追加いたしました。論文受付から判定まで迅速に進めるため、ぜひとも投稿者自身で不備不足がないようにチェックを確実に行ってから送付下さいますようお願いいたします。

24. 投稿論文の原稿に添付するものとして、①論文誓約書 ② 投稿論文チェックリスト2枚 ③ 英文抄録チェック証明書（サイン入り）を準備している（投稿規定9.6）.11）参照

### 2. 希望する査読者について

編集委員会では、投稿者が希望する査読者の方に、原則として1名査読を依頼しておりますが、種々の状況（研究の関与の有無や他の論文を複数に査読担当している等）により、必ずしもご希望に沿わないこともありますので、ご理解のほどお願いいたします。

## NICUに入院した新生児のための母乳育児支援セミナーのご案内

### 「NICUに入院した新生児のための母乳育児支援ガイドライン」のご案内

研修・教育委員会 安藤広子

【日時】☆東京会場：2010年10月2日（土）、3日（日）

☆広島会場：2010年10月23日（土）、24日（日）

【会場】☆東京会場：財団法人東京都助産師会館 5階

〒112-0013 東京都文京区音羽1-19-18

☆広島会場：広島大学大学院保健学研究科

〒734-0037 広島市南区霞1-2-3

【参加費】15,000円（演習希望の場合は、17,000円）

【参加者定員】100名（うち、演習は定員50名）

【申し込み方法】

☆東京会場：9月1日から日本助産学会事務局にメールにて申し込みしてください。先着順受付です。受付確認の返信メール到着後、参加費を学会まで振り込んでください。メールには、①氏名 ②住所 ③勤務先 ④職種 ⑤連絡先の電話番号 ⑥演習希望の有無 をご記入ください。

☆広島会場：日本新生児看護学会HPをご覧ください。

なおこのセミナーは、IBCLCの継続教育単位（CERPs）9単位が認められます。詳しくは、日本助産学会HP、日本新生児看護学会HPをご覧ください。

日本助産学会では、「NICUに入院した新生児のための母乳育児支援ガイドライン」を日本新生児看護学会と共同で平成22年4月に作成しました。このガイドライン作成の目的は「看護者は、すべての新生児が母乳で育てられるよう、特に、NICUに入院した新生児とその母親に対しても、一定水準の専門知識と技術を用いて、母乳育児を開始、継続できるよう支援する責任がある。本ガイドラインは、このような考えのもと、NICUに入院したすべての新生児とその母親が、搾乳に始まり、可能な限り早期に直接授乳の経験を重ね、NICU退院後も、母親が主体的に、出来る限り長期に母乳育児を継続することができるよう、看護者に必要な標準的な考え方や方法を提示するものである。」（ガイドラインより抜粋）としています。

本学会ホームページに掲載してありますのでご覧いただき、ご活用下さい。

## 第29回ICM(国際助産師連盟) ICM 29th Triennial Congressのお知らせ

国際委員会 加納 尚美

第29回ICM大会が、2011年6月19日～23日に、南アフリカダーバンにて開催されます。はじめてのアフリカでのICM大会開催となります。主催団体は、南アフリカ助産師会で、会長はDeliwe Nyathikazi氏です。大会のテーマは、自然と野生動物保護においてビック5と知られる南アフリカならではのものです。

「世界中でBig5に取り組もう」です。Big5とは、世界中でミレニアム開発目標に関連し、助産師やマタニティサービスが直面している課題であり、各々の地域や国によって個別のものもありますが、今回は、次の5つのサブテーマに沿って演題を歓迎するとのことです。

1. グローバリゼーション
2. 女性とそのパートナーに耳を傾ける
3. 継続ケア
4. 助産師と助産の強化
5. 文化、社会と伝統

大会ホームページ  
www.midwives2011.org

演題提出締切は、2010年5月17日(月)になっております。尚、今回の大会に関しては、遠方ということもあり日本看護協会、日本助産師会で合同ツアーを企画しております。具体的内容が決まり次第学会ホームページでお知らせいたしますので、ご覧ください。

尚、期日別の登録料金は下記になっております。

登録カテゴリー	一 般			学 生		
	2010.6.30迄	2011.2.28迄	2011.3.1以降	2010.6.30迄	2011.2.28迄	2011.3.1以降
全日程参加	EUR495	EUR525	EUR615	EUR199	EUR265	EUR315
6月19日参加	EUR35	EUR43	EUR50	EUR35	EUR43	EUR50
6月20日参加	EUR176	EUR206	EUR236	EUR136	EUR156	EUR176
6月21日参加	EUR176	EUR206	EUR236	EUR136	EUR156	EUR176
6月22日参加	EUR176	EUR206	EUR236	EUR136	EUR156	EUR176
6月23日参加	EUR176	EUR206	EUR236	EUR136	EUR156	EUR176
同伴者	EUR116	EUR126	EUR136	EUR116	EUR126	EUR136

<主催側のカンファレンス会社連絡先>

住 所: 13 Claribel Road Momingside Durban Kwazulu Natal 4001

電話 +27 31 303 9852 FAX +27 31 303 9529

担当者: Nina Freysen-Pretorius info@midwiferysa.co.za

Claire Cummings info@midwiferysa.co.za

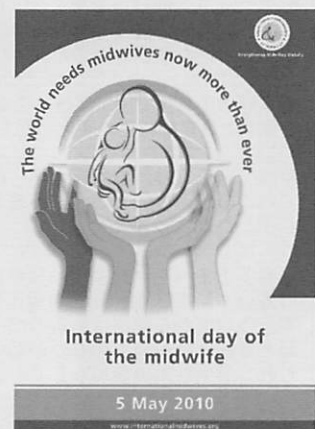
○ 2010年 5月5日 国際助産師の日

1990年のICM神戸大会で、5月5日が国際助産師の日と制定されることになりました。世界中の助産師が、助産師と助産師の仕事をもっと多くの人に知ってもらうために設けました。今年のテーマは、「いまでかつてなかったほど世界は助産師を必要としている」です。ICMのポスターは、右ですが、

www.internationalmidwives.org/Portals/5/IDMから各自ダウンロードできます。

国連のミレニアム開発目標4(乳幼児死亡率の削減)、5(妊産婦の健康改善)を実現するためには世界中ですらに35万人の助産師が必要とされています。

(www.internationalmidwives.org/CongressesEvents/InternationalDayoftheMidwifeより)



## ラオスタディーツアー報告

国際助産協働委員会 毛利多恵子

2010年3月22日から29日までラオス国にはじめてのスタディーツアーに行ってきました。18名が参加しました。現地のJICAやNGOの方々のご協力に感謝しております。ODA、国際機関、NGOの活動の実際を視察しました。村の健康教育の場面に実際に立ち会う機会もあり大変有意義なツアーとなりました。ラオスのもち米がとてもおいしかったです。

阿部 正子 (筑波大学) : 私は大学で国際母子保健を担当していますが、このツアーで現地の実状に触れ、よりよい未来を次世代へ繋ぐと信じて協同していくことの重要性を確認できました。次回はぜひ学生たちを連れてラオスを訪問したいです。

吉留 厚子 (鹿児島大学医学部保健学科) : ラオスで母子保健に携わっている日本人の看護職者のご尽力で、現地の母子保健の現状を目で見て聞いて感じる事ができました。この経験を看護学生に伝えています。

佐藤美奈子 (三育学院大学) : 国際協力の実際や国の政策について見聞き出来たことは新鮮な刺激だった。また、人々の子育てに対するおおらかさや地域での支え合いを知り、日本に忘れられてきたものを懐かしく思った。

山下 望 (神戸市看護大学 学生) : 今回のツアーでは、日本との違いに衝撃を受けることが多かったが、生まれたての子どもを抱くお父さんや家族の様子は、日本と同じだなと感じた。現地の人や、働いている人の笑顔が印象的だった。

寺田 眞廣 (三育学院大学看護学部看護学科) : 雨期にはまだ間がある3月の下旬。乾燥した地面の上を、裸足で飛び回っている子ども達がいる。ツアー4日目、ISAPHプロジェクトサイトの村を訪問した。青空天井のもと健康教育が、その後には妊婦健診や子どもの体重測定が行われる。人口約3,000人の村落では、この日小学校は臨時休校となった。この地域担当のブンゴン医師は、「屋根のある集会場が欲しい」と、微笑みつつ空を見上げた。

小田 聡子 (神戸市看護大学 学生) : 自力でお産を乗り越え、母乳1本で赤ちゃんを育てる母親の強さを知ることができました。どこへ行っても手を振ってくれる。「笑顔」は人を幸せにする・・・ラオスの人々のキラキラした笑顔をたくさん頂いた旅でした。

沼澤 広子 (国際医療福祉大学大学院助産学分野) : 2年ぶりに訪れたビエンチャンはビルが立ち並び、来るたびに町の中心部が変わっている印象です。目に見えない変化も、日々支援に携わっている方々のたゆまぬ努力のおかげなのだあらためて実感した9日間でした。

水野 道子 (国際医療福祉大学大学院) : 途上国での妊娠・出産、母乳育児の実際について興味があり、今回のツアーに参加しました。都市部の病院でのケアから地方の村のNPOの活動までを知ることができました。

早川 弘晃 (神戸市看護大学 学生) : 今回のツアーに参加したことで、現地の病院や村へ訪問して様々なことを見学し、大学の講義だけでは知ることができないことも学ぶことができ、とても有意義なラオスでの日程でした。

藤原 美幸 (徳島文理大学助産学専攻科) : 委員会の企画・準備は万全だった。それに呼応するようにどの訪問先もしっかり準備してくださり、充実した見聞ができた。これこそ「国際協働」そのものではないか。

上田 公代 (熊本大学大学院生命科学研究部) : このツアーは「百聞は一見にしかず」におさまらない、保健医療活動の原点、自分の生き方まで考えさせられるものでした。私達はラオスの国、県、市町村レベルの医療システムとそこで活動するラオスの医療従事者、ラオスの住民、日本のJICA、NGO所属の看護職の沢山の方と毎日、出会い、語り、食べて考えました。受け身でなく参加的な研修が深くしみ入る忘れられない記憶となりそうです。

大上永利子 (神戸市看護大学 学生) : 何かを与える、改善の余地を考えることが全てかと考えていたが、それは違った。昔ながらのお産の良さを感じラオス人の笑顔に癒され...得るものばかりの日々だった。出会えたことに感謝。

梶間 敦子 (天理看護学院助産学科) : ラオスの環境は健康に影響を与えている。水とトイレの不自由さを体感する中、生き生きとした子どもたちの笑顔に触れて、日本人が忘れかけている大切なものを見つけることができた。

嶋澤 恭子 (神戸市看護大学 国際助産協働委員) : 行き慣れたはずのラオスが、スタディーツアーという枠を与えられたことにより、普段と違う景色や人々との出会い方を経験できた。「助産」を実践する人、現場で住民の視点で考え行動する人との交流から新たな学びがあった。

橋本麻由美 (国立国際医療研究センター 国際助産協働委員) : 心に深く刻まれたツアーでした。自然の中で暮らすラオスの人々の力強さと妊産婦死亡の現実の両方を感じました。また、ツアーに参加された方々との共有の時間も貴重で、多くの学びを得ました。

早瀬 麻子 (神戸市看護大学 国際助産協働委員) : 「ラオスの人々と共に学び、共に考えること」を大切にして現地で活動されている姿が印象的でした。心地よい風が吹き抜けるお寺での妊婦健診や乳幼児健診、子どもたちの笑顔...コミュニティの力を感じました。

毛利多恵子 (毛利助産所 国際助産協働委員) : ある妊産婦死亡に立ち会ったNGOの方のお話をきき、死亡の原因について現実を教えていただく機会がありました。本当の現実から解決はあるのだろうかと感じたツアーでした。ラオスののどかな時間と雰囲気はかつてのなつかしい日本のような風景でした。参加者の皆さまに支えられ 学生さんの参加もとてもよく 本当によいツアーでした。





第8期学会運営および事業推進組織表

任期平成22年総会～平成23年総会

担当および委員会	担当理事 ○委員長	担当幹事および委員の氏名と所属
庶務・会則・渉外担当	砥石 和子	山本 智美 聖母病院
会計担当	高田 昌代	藤井ひろみ 神戸市看護大学
広報委員会	北川眞理子	辻村 嵐美 名古屋市立大学（7月から） 中込さと子 山梨大学 村上 真理 広島大学（6月まで）
編集委員会	島田 啓子	安達久美子 首都大学東京 有森 直子 聖路加看護大学 木村 千里 首都大学東京 島田真理恵 聖母大学 春名めぐみ 東京大学 谷津 裕子 日本赤十字看護大学
表彰関連選考委員会	○ 平澤美恵子 北川眞理子 島田 啓子 松岡 恵 毛利多恵子	高橋 弘子 天使大学
国際委員会	加納 尚美	石川 紀子 愛育病院 大石 時子 天使大学 小黑 道子 聖路加看護大学 山本 令子 れいこ助産所
国際助産協働委員会	毛利多恵子	五味 麻美 川崎市立看護短期大学 嶋澤 恭子 神戸市看護大学 橋本麻由美 国立国際医療センター 早瀬 麻子 神戸市看護大学
学術会議委員会	○ 近藤 潤子 堀内 成子	
学術振興委員会	江藤 宏美	浅井 宏美 聖路加看護大学 片岡弥恵子 聖路加看護大学 田所由利子 前 慶応義塾大学 八重ゆかり 聖路加看護大学看護実践開発研究センター
ガイドライン委員会	○ 江藤 宏美 堀内 成子	
業務検討委員会	○ 松岡 恵 砥石 和子 平澤美恵子 福井トシ子	神谷 整子 みづき助産院 窪田 裕子 渋川産婦人科医院 福島 恭子 愛育病院 村上 睦子 国際看護交流協会
研修・教育委員会	○ 安藤 広子 恵美須文枝 高田 昌代	栗野 雅代 金沢大学（院生） 岡永真由美 広島大学（院生） 木下 千鶴 杏林大学医学部付属病院 斉藤有希江 杏林大学医学部付属病院 谷口 千絵 日本赤十字看護大学
看護系学会等社会保険連合会	○ 高田 昌代, 福井トシ子	
看護系学会協議会	堀内 成子	
監 事	青木 康子 竹内美恵子	
学術集会	第25回学術集会長 北川眞理子（平成22年4月～平成23年3月） 第26回学術集会長 園生 陽子（平成23年4月～平成24年3月）	
第8期選挙管理委員会	島田真理恵	安達久美子 首都大学東京 近藤 好枝 慶応義塾大学 佐藤喜美子 杏林大学 島袋 香子 北里大学

\*委員長以下五十音順、委員の所属名詳細は省略

\*\*\*本学会では下記の募金を受付けています。会員の皆様のご協力をお待ちしています。\*\*\*

☆ ICMスポンサー・ア・ミッドワイフ(国際基金) ☆  
 発展途上国の助産師の参加用援助としての募金です。  
 一口 2,000円  
 振替口座番号：00190-8-710931  
 加入者名：日本助産学会国際基金

☆ セーフマザーフード基金 ☆  
 世界で妊婦死亡率・罹病率が最も高い地域における  
 助産知識の発展を支援する募金です。 一口 1,000円  
 振替口座番号：00240-8-6818  
 加入者名：日本助産学会ICMセーフマザーフード基金

今回は、郵便振込の他第24回日本助産学会学術集会会場にて多くの方にご協力いただきましたのでご紹介いたします（敬称略・順不同）。小木曾みよ子、川原淳子、嶋澤恭子、大谷タカコ、毛利多恵子、恵美須文枝、島田啓子、平澤美恵子、堀内成子、佐藤香代、有森直子、井村真澄、小田切房子、高橋弘子、村上明美、村上真理、江藤宏美、森脇智秋、丸山知子、北川真理子、鈴井江三子、菅沼ひろ子、岡本喜代子、大久保功子、浅生慶子、青木康子、加納尚美、佐藤喜根子、高室典子、高田昌代

事務局からのお知らせ

お知らせ事項	内 容	方法・連絡先 等
平成22年度 年会費 10,000円 納入について	今年度（平成22年度）会費納入がまだの方は、早急にお振込みをお願いいたします。 郵便振込み先および他銀行振込み先は、右記の通りです。通信欄に会員番号と納入年度の記載をお願いします。 年会費支払方法につきましては、口座引き落としと郵便振替（他銀行からの振込も可能）の方法がありますが、事務局では、振込忘れや振込の手間を省ける口座引き落としの方法をお勧めしています。郵便振替から口座引き落としへの変更を随時受け付けていますので、事務局までご連絡ください。 また、学会誌投稿（共同研究者含）、学術集会演題応募（共同研究者含）、研究助成応募（研究代表者）等は、会員で該年度の会費納入済みが条件になります。 応募される場合は、お早めに会費納入をお済ませの上ご応募下さい。 日本助産学会は皆様の会費により運営しています。また、会費納入が遅れますと学会の諸情報の送付が滞りますのでご注意ください。 ご不明な時は、事務局までお問い合わせ下さい。	★郵便振込★ 【口座記号番号】 00120-2-763540 【加入者名】 一般社団法人 日本助産学会  ★他銀行★ ゆうちょ銀行 〇一九(ゼロイチキョウ)(019)店 (当座) 0763540 一般社団法人 日本助産学会 シャ) ニホンジョサンガツ カイ
変更届 について	住所・所属等の変更や退会希望の場合、変更・退会届の書式は問いません。必ずお早めに事務局へお知らせください。学会誌等送付にはクロネコメール便を利用しますので、転送届けをしても届かない場合があります。変更届は必ずお出しください。 また、ご自宅ポストの表示がない場合も届きませんので、表示もよろしくをお願いします。 学会誌等が届かないような場合は事務局までご一報ください。	【連絡方法】 Fax・mail・はがき・Email 等に明記してご連絡下さい。 JAMホームページの変更・退会届をダウンロードできますのでご利用下さい。
退会時 のご注意	次年度から退会希望の方は、必ず1月末までに退会届のご連絡をお願いします。 退会連絡がない限り会員継続となり、年会費をお納めいただくこととなります。 特に口座引き落としの場合で退会希望される方はご注意ください。十分にご理解頂きたくお願い申し上げます。	
学会誌 バックナンバー 無料化と 書籍販売	送料は申込者負担で配布中です。在庫に限りがあります。 *学会誌バックナンバー： 第1～17巻 無料、第18～22巻 2,500円/部、第23巻以降 3,500円/部 *「マタニティケア政策をめぐる国際比較」国際シンポジウム 500円/部 *「日本助産学会委託研究・学術奨励金助成研究報告書（第3号）」 100円/部	【申込方法】 ホームページから申込書をダウンロードし、FAX・E-mailで送信してください。

☆ お問い合わせ先 ☆  
 一般社団法人 日本助産学会事務局  
 〒111-0054 東京都台東区鳥越2-12-2 日本助産師会館3階  
 Tel&Fax：03-3866-3032 E-mail：jam1987@ninus.ocn.ne.jp  
 JAMホームページ：http://square.umin.ac.jp/jam/

円滑な事業推進に  
ご協力下さいますよう、  
どうぞよろしく  
お願い申し上げます。